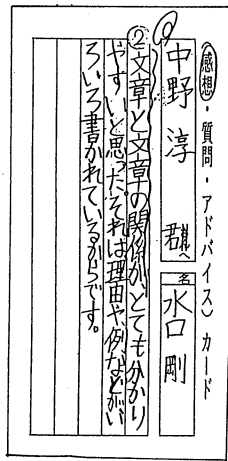


資料3 自己評価カード

5年 国語 表現学習 反省カード		5の5 番 氏名 M児	
学習のあしあとや感動が伝わるように構成を工夫する。		自分の反省	先生 備考
1. 見返り	○ 主題がわかるように工夫したか。	10/11 ○	○
2. 取扱い	○ 取材の仕方がわかり、取材できたか。	10/4 ○	○
3. 主眼文	○ 主眼文の書き方がわかり、200字程度で一番書きたいことがうまく書けたか。	10/5 ○	○
4. 有聲反文	はじめ ○ 書き出しの工夫	10/5 ○	○ とてはまひですよ。
	中 ○ 具体的事例 ○ 会話 ○ 考え・意見 思ったこと	10/6 △	○
	終わり ○ まとめ ○ 結びの工夫	10/6 △	△ 自分教師はいいね
5. 本文	○ 構成によって、取材したことをうまく文章にすることができたか。	10/7 ○	○
	○ 題名や主題文とつながりがあり、説得力のある意見が書けたか。	10/7 △	○ 最後まで書くとは記録文になるよ。
	○ 段落を考えながら書いたか。	10/7 △	○
	○ 書きたいことの中心をくわしく書けたか。	10/7 ○	○
6. 音平(音)友達同士の反省	○ 助詞(「に」「を」「は」「へ」) ○ 誤字 脱字(まちがひ字ぬけ字)	10/11 ○	○
	○ 題名や主題文とつながりがあるか	10/11 △	△ がけはれ!
	○ 友達の良いところをみつけることができたか。	△	
	○ 質問したり、こうしたほうがよいとアドバイスできたか。	○	友達にアドバイスできるのはすばらしいです。
○ 進んで楽しく学習できたか。		○	

- ③ 教師による評価
- ① 自己評価について
- ② 相互評価について
- ④ を用い、友達よさを認め学び、共に高め合うことができるようにした。

資料4 相互評価カード



ア、評価方法と評価規準の設定

実践1から4までは試行錯誤的に

行い、改善を加え【資料5】の評価記録用紙を作成した。短時間にその子を手速く評価し、次の支援に生かす評価を目指した。座席表による評価のように一単位時間だけでなく、一単元全体のその児童の学習状況、経過、変容、成果等が分かるように

した。単元の目標に合わせ重点的に評価し、その児童の個性が浮き彫りになるよう工夫した。

イ、児童の目前での即時評価

文章表現学習でも、児童の目前で行う評価支援(結果の知識)をすぐにフィードバックしてやること)が、最も効果的であると思われる。そこで、本文の下書きを終え清書する前に「相談室」で教師の評価支援を受ける場を設定した。この方法が、最も個に応じた指導方法であると思う。が、計画時数の中で全員に徹底することは、難しい。そこで、TT方式をとれば、可能かと考えた。

(3) 《視点Ⅲ》基礎的基本的内容の定着のために

① 「構成の仕方」の指導例 省略

四、結果と考察

1 自己評価力の変容

児童は、どの程度自己を客観的に評価できたのだろうか。自己評価カードの児童欄と教師欄を比較し、差異を調べた。また、その自己評価力の変容を実践1と実践3で比較した。

《取材、題名のつけかた》 そのよしあしがおおむね判断できた。

《主題文、要旨の書き方》 自分の書いた主題文が、書きたいことの中心を捕らえたよ主題文か否か、正しく自己評価することは難しい。

《構成の仕方》 よく構成できたか否か判断する力が、伸びていた。

《本文記述》 自分の本文が、優れているか否か判断することは、大変難しい。このことは、本文を推敲する力にも関係してくる。教師は、これらの実態をふまえて、主題文や要旨、本文を推敲する時、安易に児童の自己評価に任せることなくより適切な支援を行う必要がある。

2 相互評価について

(1) 相互評価力の変容

実践1では、相互評価は、約三十パーセントしかできなかったが、実践2、3と学習を重ねるごとに約八十パーセントがでるようになった。

(2) 相互評価の内容

相互評価については、可否の外に、内容と質が問題である。【資料6】

児童は、教師の予想以上に的確な感想やアドバイスをしていた。ほとんどが友達よさについて賞賛し、マイナスイ面については、適切なアドバイスをしていった。教師一人では、到底なし得ない児童一人一人への細かいアドバイスや評価を、児童同士行っており教師の評価を補っていた。

3 文章表現力の変容

(1) 抽出児の変容

S児は、文章表現が苦手な、実践1では意見文にならなかった。自己評価では、自己、教師共に△が多か